

キャットミュージックカレッジ専門学校 専門課程

2020年度 自己評価報告書

(基準日2021年3月31日)

はじめに

本校では、学校教育法及び学校教育法施行規則に則り、学校評価（自己評価・学校関係者評価）実施に向けた体制作りを行ってまいりました。そして現在、文部科学省策定の『専修学校における学校評価ガイドライン』をもとに、学内におけるPDCAサイクルの確立を目指し自己評価を行っています。より充実した、教育環境と在校生・卒業生のサポート体制確立に向け、さらなる努力をしていく所存でございます。

本校関係各位の皆様におかれましては、さらなるご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

2021年7月
学校法人大阪創都学園
キャットミュージックカレッジ専門学校
学校長 美根 宏史

<自己評価委員会>

委員長 美根 宏史（学校長）

鈴木 雅文（学校法人大阪創都学園 理事長）

石角 公宏（学校法人大阪創都学園 副理事長）

城 将敏（学校法人大阪創都学園 事務長）

森 正（教務主任）

白藤 浩史（教務副主任・ダンス学科）

小池 敏（キャリアサポートマネージャー・総合学科）

杉山 徹（教務マネージャー・ミュージシャン学科）

豊島 芳樹（音楽技術学科）

横山 友之（楽器ビジネス学科）

<自己評価実施概要>

- ・学生授業アンケート（2020年9月及び2021年2月）
- ・アンケート集計をもとに、自己評価委員会において討議。
2020年度カリキュラムの修正等への反映について確認（2021年3月）
- ・本校実施自己評価アンケートを自己評価委員各位において記入（2021年4月）
- ・自己評価委員会において各自評価表について討議（2021年5月）
- ・自己評価委員会において、2020年度自己評価について取りまとめを行い、内容確認及び承認。（2021年7月）

キャットミュージックカレッジ専門学校 専門課程 2020年度自己評価表

1. 学校の教育目標

(教育理念)

「個性」を磨き 「才能・能力」を高め「技術」を身につける。仕事として、音楽・ダンスなどのエンタテインメントに関わる上で大切な要素を持った人材を育成・輩出する。そして、エンタテインメント業界の発展に寄与する。

- ◇学生にとって将来につながる有意義な学校であること
- ◇業界にとって信頼できる人材育成機関であること

(教育目標)

音楽・ダンスなどのエンタテインメントに関わる上で大切な要素を持った人材を育成・輩出する。その為に、音楽・エンタテインメントの専門教育においては、基礎力・応用力・実践力を身につけるカリキュラムを構築し、専門知識や技術を習得します。また、人間力の育成・向上に重要なこの時期、社会生活において必要となる常識・社会性はもちろん、豊かなコミュニケーション力・自己表現力といった社会適応能力を、専門教育を通じて身につけていきます。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

■学生状況の把握

退学防止に向け、学生の状況を把握し早期の対策を講じ、進級率の向上を図る。

■進級率の向上

出席率確認と状況把握から、退学防止に向け早期の対策を講じる。

■就職率の向上

個々の状況に合わせた指導を行い、自己表現を主とする活動を目指す学生にも一旦職に就くという進路対応を行う。

3. 評価項目の達成及び取組状況

■進級率の向上

目標にはわずかに届かず未達となった。しかしながら進級率は前年度から大きく改善されている。今後もこの状況を継続できるよう、個別の状況把握に注力していきたい。

(令和2年度進級/卒業率 進級：93% 卒業：94% 令和元年度進級/卒業率 進級：87% 卒業：94%)

■出席率と学生状況の把握

出席率については年間の実績が昨年度を上回る結果となった。新型コロナウイルス感染症が拡大、防止対策とオンライン授業の併用、これまでに経験のない状況だったが、学内感染を出さずに乗り切った。このような状況でも、学生が目標・目的に対する意識をしっかりと継続できるように指導を行っていきたい。

(令和2年度年間平均出席率 1年：92% 2年：85% 令和元年度年間平均出席率 1年：88% 2年：81%)

■就職率の向上

コロナ禍の中、就職活動も大幅に制限され、学生の活動自体思うようにできなかった。求人数の減少など、やむを得ない面もあったが、有名レコーディングスタジオやプロダクションへの就職など、学生サポートを行った結果は一定見られた。ただし、就職活動を継続しながら卒業した者もあり、現在も就職指導や技術練習のためのチューターサポートを継続しながらサポートしている。

4. 各項目による点検評価状況

※別紙参照

はじめに

本校では、学校教育法及び学校教育法施行規則に則り、学校評価（自己評価・学校関係者評価）実施に向けた体制作りを行ってまいりました。そして現在、文部科学省策定の『専修学校における学校評価ガイドライン』をもとに、学内におけるPDCAサイクルの確立を目指し自己評価を行っています。より充実した、教育環境と在校生・卒業生のサポート体制確立に向け、さらなる努力をしていく所存でございます。

本校関係各位の皆様におかれましては、さらなるご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

2021年7月
学校法人大阪創都学園
キャットミュージックカレッジ専門学校
学校長 美根 宏史

<自己評価委員会>

委員長 美根 宏史（学校長）

鈴木 雅文（学校法人大阪創都学園 理事長）

石角 公宏（学校法人大阪創都学園 副理事長）

城 将敏（学校法人大阪創都学園 事務長）

森 正（教務主任）

白藤 浩史（教務副主任・ダンス学科）

小池 敏（キャリアサポートマネージャー・総合学科）

杉山 徹（教務マネージャー・ミュージシャン学科）

豊島 芳樹（音楽技術学科）

横山 友之（楽器ビジネス学科）

<自己評価実施概要>

- ・学生授業アンケート（2020年9月及び2021年2月）
- ・アンケート集計をもとに、自己評価委員会において討議。
2020年度カリキュラムの修正等への反映について確認（2021年3月）
- ・本校実施自己評価アンケートを自己評価委員各位において記入（2021年4月）
- ・自己評価委員会において各自評価表について討議（2021年5月）
- ・自己評価委員会において、2020年度自己評価について取りまとめを行い、内容確認及び承認。（2021年7月）

キャットミュージックカレッジ専門学校 専門課程 2020年度自己評価表

1. 学校の教育目標

(教育理念)

「個性」を磨き 「才能・能力」を高め「技術」を身につける。仕事として、音楽・ダンスなどのエンタテインメントに関わる上で大切な要素を持った人材を育成・輩出する。そして、エンタテインメント業界の発展に寄与する。

- ◇学生にとって将来につながる有意義な学校であること
- ◇業界にとって信頼できる人材育成機関であること

(教育目標)

音楽・ダンスなどのエンタテインメントに関わる上で大切な要素を持った人材を育成・輩出する。その為に、音楽・エンタテインメントの専門教育においては、基礎力・応用力・実践力を身につけるカリキュラムを構築し、専門知識や技術を習得します。また、人間力の育成・向上に重要なこの時期、社会生活において必要となる常識・社会性はもちろん、豊かなコミュニケーション力・自己表現力といった社会適応能力を、専門教育を通じて身につけていきます。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

■学生状況の把握

退学防止に向け、学生の状況を把握し早期の対策を講じ、進級率の向上を図る。

■進級率の向上

出席率確認と状況把握から、退学防止に向け早期の対策を講じる。

■就職率の向上

個々の状況に合わせた指導を行い、自己表現を主とする活動を目指す学生にも一旦職に就くという進路対応を行う。

3. 評価項目の達成及び取組状況

■進級率の向上

目標にはわずかに届かず未達となった。しかしながら進級率は前年度から大きく改善されている。今後もこの状況を継続できるよう、個別の状況把握に注力していきたい。

(令和2年度進級/卒業率 進級：93% 卒業：94% 令和元年度進級/卒業率 進級：87% 卒業：94%)

■出席率と学生状況の把握

出席率については年間の実績が昨年度を上回る結果となった。新型コロナウイルス感染症が拡大、防止対策とオンライン授業の併用、これまでに経験のない状況だったが、学内感染を出さずに乗り切った。このような状況でも、学生が目標・目的に対する意識をしっかり継続できるように指導を行ってきたい。

(令和2年度年間平均出席率 1年：92% 2年：85% 令和元年度年間平均出席率 1年：88% 2年：81%)

■就職率の向上

コロナ禍の中、就職活動も大幅に制限され、学生の活動自体思うようにできなかった。求人数の減少など、やむを得ない面もあったが、有名レコーディングスタジオやプロダクションへの就職など、学生サポートを行った結果は一定見られた。ただし、就職活動を継続しながら卒業した者もあり、現在も就職指導や技術練習のためのチューターサポートを継続しながらサポートしている。

4. 各項目による点検評価状況

※別紙参照



2020年度自己評価表



学校法人 大阪創都学園

「職業実践専門課程」認定校

キャットミュージックカレッジ専門学校

キャットミュージックカレッジ専門学校 専門課程 2020年度自己評価表(別紙資料)

4.各項目による点検評価状況 (点検の評価について)

[4] 適切 [3] ほぼ適切 [2] やや不適切 [1] 不適切

大項目	点検項目	点検評価	
	1-1	・理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
	1-2	・学校における職業教育の特色は何か	4
	1-3	・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
	1-4	・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・学生・関係業界・保護者等に周知がなされているか	4
	1-5	・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
	教育理念・目的・人材育成像	<p>具体的な状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在学中にそれぞれの専門分野の知識・技術を理解修得し、卒業後もその将来に渡り分野の追求と活動を行っていきけるような人物像を目指す。 ・「音楽」を理解し実践的な教育と共に、共有・協調・チームワークを築くことができる教育を目指す。 ・めまぐるしく変化する業界のソフト&ハードへの対応力を持ち、今後の業界に必要とされる仕事内容についての情報も吸収しながら調査や研究等も継続していきたい。 ・担任及び講師の指導、業界へのプレゼンテーションイベントや協カイベント、保護者懇談会、3者面談等、それぞれの集まりにおいて周知徹底を行っている。 ・学校ホームページでの情報公開、学校案内パンフレットへの掲載等により、学生、保護者、業界関連企業等へ、またこれから進学を考える高校生にも周知がなされている。 ・演奏やパフォーマンス系の学生、音楽技術関連の学生等、それぞれに業界のニーズが存在する。率先して自分を前に出していく能力、チームの統率管理等、単に知識技術にならないような工夫も行っている。 	

大項目	点検項目	点検評価	
学校運営	2-6	・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
	2-7	・事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
	2-8	・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
	2-9	・人事、給与に関する制度は整備されているか	4
	2-10	・教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4
	2-11	・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
	2-12	・教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
	2-13	・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
		<p>具体的な状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や運営の方針については、毎年、年度当初の職員会・講師会を通じて方針等の打ち出しをしている。 ・事業計画(行事計画)や教育計画を策定し進めている。 ・長期的な目標を持ち、行事等の計画の見直しを行いながら年度ごとに運営方針が策定される。 ・校長以下組織的な構造を持ち、教務意思決定については明確になっている。 ・個人情報などのコンプライアンスについては、教職員は定例の会議にて周知徹底し、学生についてもホームルーム、各授業を通して指導している。 ・WEBサイト、SNS等を通じて、行事等の報告を行っている。 ・学校評価関係についての開示をしている。 ・学内情報のWEB掲示板やsigfyの活用を工夫し、学生生活や就職関連について効率よく情報発信を行っている。ただし、現状の管理システム運用より年数が立っており、今後再構築を行いさらに業務の効率化を進めたい。 	

(点検の評価について)

[4] 適切 [3] ほぼ適切 [2] やや不適切 [1] 不適切

大項目	点検項目	点検評価
教育活動	(目標の設定等)	
	3-14 ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
	3-15 ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
	(教育方法・評価等)	
	3-16 ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
	3-17 ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
	3-18 ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
	3-19 ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
	3-20 ・授業評価の実施・評価体制はあるか	4
	3-21 ・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
	3-22 ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
	(資格試験)	
	3-23 ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか(技術系専攻に限る)	4
	(教職員)	
	3-24 ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
	3-25 ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
	3-26 ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
	3-27 ・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4
	具体的な状況等	
	<p>・「個性」を磨き、「才能・能力」を高め「技術」を身に付けるという理念に沿っての教育方針を実施、毎年、業界の求める人物像により近づける努力をしている。</p> <p>・学校が理想としている達成レベルを意識して進めているが、各学生たちの個人差が大きくなっているように感じる。学習時間の確保は明確にされているが、その内容と質にもっと具体的な施策を講じるように努力していくことが賢明である。</p> <p>・各企業との講師契約の流れもあり、現状の業界が理解しやすい教育体制を取っている。いろんな方々の現場の立場を理解した内容をカリキュラムに盛り込んでいく努力を行っている。</p> <p>・学校主導で行う産学協同イベントへの参加、または関連企業が行う企業研修制度等、全てにおいて、学生から、その内容等が報告(研修報告書)されるかたちをとっている。時には、その中の問題点が抽出され各授業に反映していくような組織づくりを目指す。</p> <p>・年間2回、在学生たちに授業アンケートを実施。問題点の抽出もしっかり行い、真摯に受け止め改善にあたる努力をする。</p> <p>・毎年、教育課程編成委員会を実施、外部関係者からの客観的な意見を頂ける工夫をしている。</p> <p>・成績評価、出席評価等の規定あり(学則に明記)</p> <p>・各専攻で取得できる内容が変わってくるので、それぞれが個別に対応している。検定対策は、授業カリキュラム内で修得するようにしているが、例外として就職活動時に所持している方が、有利に働く資格等は、できるだけ早い時期に対策講座等を追加で設け、年々求められるレベルが上がる中で対応強化を図り、その取得に努力している。</p> <p>・業界関連の企業との契約ライン、または、個別にアプローチした人材、または自己推薦的なものを含め、良い教員ストックは常に行っている。現状は若手講師の研修等の整理が必要と考える。</p> <p>・現状の契約企業や求人票からのPUを行い、現場サイドの仕事を請け負っている企業へのアプローチ等を行っている。提携先は、あくまでも開拓していく方針で進めているが、紹介、依頼なども検討しながら進めている。</p> <p>・全体講師会等では各種セミナーを実施、知識見聞を広げるための個別セミナーへの参加、各自が自発的に行う自己研磨的なもの(ライブ活動や録音等も含む)等が上げられる。また、教員の指導力育成などの資質向上のための取り組みを実施している。</p> <p>・教員と同じく全体講師会等で各種セミナーを実施。休講期間中を使った各種Meeting等において簡易的な研修等が行われている。</p> <p>※2020年度においては、コロナ禍の中、教育環境の大きな変化があった。その中においてもオンライン授業の早期実施や感染防止対策を講じたうえでの対面授業の実施など教職員が一丸となって教育機会の確保に努めた。</p>	

(点検の評価について)

[4] 適切 [3] ほぼ適切 [2] やや不適切 [1] 不適切

大項目	点検項目	点検評価
学修成果	4-28 ・就職率の向上が図られているか	4
	4-29 ・資格取得率の向上が図られているか	4
	4-30 ・退学率の低減が図られているか	4
	4-31 ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
	4-32 ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3
	<p>具体的な状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職専任スタッフにより、全体的なディスカッションや講座、個別面接、電話対応までを実施。常に就職向上の努力が行いやすい体制にしている。 ・資格取得率のUPも考えた資格対策講座等も行っている。音楽技術学科では、実務での効果を十分に考慮し新規に資格試験の導入を行っている。 ・担任制があり学生が個別に相談しやすくしている。また、保護者とのコミュニケーションも取りながら進めることもできる。実技担当講師等に相談する場合も、学校内の情報共有ができる体制を取っている。 ・各学科において退学率を1割以内に抑えることができている。いくつかの学科に大きな改善が図られた。担任配置の体制を変更するなどの取り組みに効果が表れている。 ・全卒業生の活動把握は難しいが、在学中より学校や担任、講師とのつながりを深く持つことによって得られてくる情報により活動把握がしやすくなっている。卒業しても状況報告等が各担任や就職・キャリアセンターにあることも学校の大きな特徴だと思う。 ・在学中に吸収した知識や技術が、今後の活動にどう生きていくかという検証は時間も必要となる。いろんなケースがあり、学生の成長過程に同一ケースはないので、さまざまな成長事例を今後の教育改善に役立てていくようにしたい。 	

大項目	点検項目	点検評価	
学生支援	5-33 ・進路・就職・デビューに関する支援体制は整備されているか	4	
	5-34 ・学生相談に関する体制は整備されているか	4	
	5-35 ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	
	5-36 ・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	
	5-37 ・保護者と適切に連携しているか	4	
	5-38 ・卒業生への支援体制はあるか	4	
	5-39 ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	
	5-40 ・関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等を行っているか	3	
	<p>具体的な状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専任のスタッフが在校生および卒業生の相談等にも応じる体制をとっている。 ・専属の担任を配置して学習内容や日常生活等に関しても相談しやすい環境を提供している。 ・日本学生支援機構の奨学金制度、高等教育の修学支援新制度、提携の教育ローン、学校独自の特別分割、校友会奨学金制度、特待生制度等、いろんなかたちで支援するかたちを持っている。 ・企業研修、就職活動、または学校が提携する学外研修、音楽活動(演奏活動)等の学校が認めるものに対しての公欠という制度は支援体制と理解して行っている。 ・保護者懇談にて、学生の学習状況や進路について話し合いの場を持つことを心がけている。担任は、学生生活のいろんな場面に対応すべく保護者との連携を取るようになっている。 ・卒業後にも起こりうる転職や再就職に対してもバックアップする体制を取っている。業界的には中途採用も多く、卒業生支援になっている。また単発の制作業務やオーディションに関しても全卒業生に案内できるHPを持っている。 ・ダンス学科はインストラクター要素の実習を行っている。他は音楽技術学科を中心にそれらの取り組みが行われているが、職業教育を視野に入れた実習体験型のイベントに高校生が参加する形態である。 ・学内で行う特別授業やオーディション等には、卒業生対応のものもあり、実質「フォーエバーサポート」という名称で、この再教育プログラムの働きをしている。 ・5-40については、関連スクール「キャットエンタテインメントスクール」において、卒業生への教育機会の提供を開始したことから、今後さらに発展するように努めていきたい。 		

(点検の評価について)

[4] 適切 [3] ほぼ適切 [2] やや不適切 [1] 不適切

大項目	点検項目	点検評価	
教育環境	6-41	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
	6-42	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4
	6-43	防災に対する体制は整備されているか	4
	具体的な状況等 ・教育的な必要性に対応すべく設備等の入替えは常に検討して行っている。デジタル化の速度についていけない時期もあったが、その時期を乗り越したところもある。メンテナンス等の不備が無いよう心がけている。 ・外部の現場に出て行う企業研修制度や演奏活動においても具体的な指針を示しながら、その充実に向けて取り組んでいる。海外研修は、有志参加による課外活動として取り組んでいるが、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大のためやむなく中止とした。 ・定期的な避難訓練、学内におけるポスター掲示、また随時徹底した担任や学生課からの注意喚起を行うことにより、安全な学校生活を送れるよう努力している。 ※2020年度においては、コロナ禍の中、オンライン授業に向けた環境整備などを追加し、教育環境充実に努めた。		

大項目	点検項目	点検評価	
学生の受入れ募集	7-44	高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	4
	7-45	学生募集活動は、適正に行われているか	4
	7-46	学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	4
	7-47	学生納付金は妥当なものとなっているか	4
	具体的な状況等 ・専門的な内容を理解して頂くための訪問授業や職業体験の受け入れ、または高等学校協賛/主催等の様々なイベントへの音楽的な技術協力にも取り組んでいる。 ・定期的に行うオープンキャンパス(体験授業を含む説明会)等をでは、説明に多くの時間を割き、各学科の学習内容や就職情報、または納付金を含む入学手続きまでを正確に伝えている。また、保護者の方々にも十分に理解して頂く時間も設けている。 ・資格取得に有利性がある仕事や資格制度がない業種の情報も含め、現状で学校に頂いている求人票等を実際に見ながら説明を行うようにしている。 ・毎年、学校全体の収支条件を調整しながらの運営を行う体制を築いている。よって納付金(学費・設備/教材費等)に関しては大きく変動することなく現在に至っている。		

大項目	点検項目	点検評価	
財務	8-48	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
	8-49	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
	8-50	財務について会計監査が適正に行われているか	4
	8-51	財務情報公開の体制整備はできているか	4
	具体的な状況等 財務の概要につきましては、財産目録・貸借対照表・資金収支計算書・事業活動収支計算書に記載のとおりであります。概要につきましては、事業活動収支では法人傘下の両専門学校におきまして、学生募集が少子化により減少し、学生生徒等納付金が639百万円となり、教育活動収入合計が662百万円となりました。一方、支出につきましては、音響機器等を計上するなどの教育設備の充実を図りました結果、教育活動支出の合計は640百万円となり、教育活動収支差額が22百万円となりました。 また、貸借対照表では、建物が1,230百万円、教育研究用機器備品等92百万円となり、借入金につきましても59百万円(前年対比マイナス58百万円)となりました。また、期末現在の純資産残高は、昨年対比21百万円増加の4,162百万円となりました。 令和2年度入学生については、キャットミュージックカレッジ専門学校、大阪アニメーションカレッジ専門学校共に学生募集が厳しくなっており、学生数の増加が見込みにくい状況でありましたが、令和3年度の募集につきましては若干の回復の兆しが見受けられます。このままの勢いを保持しながら現在掲げている目標数字に向かって達成できるよう、教職員全員一丸となり、教育活動収入増加に努力するとともに、教育活動支出面におきましては合理的に支出し、学校の安定的な基礎維持のため、一定部分の収益確保を目指して健全な学園運営を行ってまいりたいと存じます。		

(点検の評価について)

[4] 適切 [3] ほぼ適切 [2] やや不適切 [1] 不適切

大項目	点検項目	点検評価	
法令等の遵守	9-52	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
	9-53	・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
	9-54	・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
	9-55	・自己評価結果を公開しているか	4
	具体的な状況等 ・自己評価については学生授業アンケート等を実施し、カリキュラムの構築や、講師の指導等に役立てている。 ・WEBサイトでの開示を行っている。		

大項目	点検項目	点検評価	
社会貢献・地域貢献	10-56	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
	10-57	・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
	10-58	・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3
	具体的な状況等 ・吹田市・江坂企業協議会との連動による音楽イベントの開催など、地域イベント等に積極的に参加している。また、地元自治会等への教室の貸し出しなどを行っている。 ・地域の清掃活動や学校へオファーのボランティア活動などについて、趣旨・団体等を確認したうえで学生への案内を行っている。ただし、2020年度はコロナ禍の中、多くのボランティア活動が中止となった。 ・関西エリアで実施される大型フェスイベント等で、希望者を募りボランティア活動のスタッフ参加を行っている。 ・行事等においての学校校内の公開は行っている。なお、先述した関連スクール「キャットエンタテインメントスクール」の活動等を通じて、地域等への講座の開設などに取り組んでいきたい。		

大項目	点検項目	点検評価	
国際交流	11-59	・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4
	11-60	・受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	4
	11-61	・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
	11-62	・学内での適切な体制が整備されているか	3
	具体的な状況等 ・日本語学校との交流をはじめ、海外からの見学希望者に対応したりと交流を図っている。しかしながら、昨年度はコロナ禍の中海外からの直接の見学者はなかった。 ・留学生の受け入れについては、入国管理局の指導に即し、各種手続きを適正に行っている。 ・学生作品をWEBサイト上に掲載する事で海外の方々からも高く評価いただいている。 ・留学生専門の担当者を配置し、受け入れから卒業後のサポートまで支援を行っている。		